

奈良・旧大乘院庭園
きゅうだいじょういんていえん

1 所在地 奈良市高畑町

2 調査期間 二〇〇三年(平15)一月～三月

3 発掘機関 奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査部

4 調査担当者 代表 岡村道雄

5 遺跡の種類 庭園跡

6 遺跡の年代 古代～近代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は平城京跡左京四条七坊東端部で奈良時代には元興寺禪定院、平安時代末以降は興福寺大乘院となった。その後幾多の変遷を経て今日に至る。(財)日本ナ



(奈良)

シヨナルトラストによる「名勝旧大乘院庭園保存修理事業」の一環として一九九五年度以降継続して調査を行なっており、過去にも木簡が出土した(本誌第二二・二四号)。

今回の調査は池の西側で

行ない、調査面積は約二七〇㎡。主な検出遺構は、西小池中池SG七六五一の北岸・東岸、「ラシマ」と呼ばれる中島SX八七七〇、岬状遺構SX八七七五などで、これら園池遺構は一八八三年の飛鳥小学校校舎新築時に埋め立てられた。木簡は、園池遺構埋め立て後に掘られた南北溝SD七八九八から計六点が出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「。吉川房治郎」

・「。吉川□家」

121×27×6 011

(2) ・「□□藤三郎」

・「□□」

167×27×7 081

(3)

□□□商店 電話二一四□□□

(230)×(14)×3 061

(1)は上端に小孔を有する名札状の木片。表裏で人名が異なる理由は不明。(2)も名札状を呈するが孔はない。(3)は鯨尺の竹尺。裏面に商店名と三桁または四桁の電話番号を記す。その他の木簡は釈読できなかった。いずれも近代の遺物で、正確な時期は不明である。

9 関係文献

奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要 二〇〇四』(二〇〇四年)

(馬場 基)